

世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・ta

災害時対策事業について



世田谷区医療的ケア相談支援センター
センター長 等々力 寿純

世田谷区医療的ケア相談支援センター事業



医療的ケアに関する専門相談支援



在宅生活相談支援（支援プラン作成）



施設への技術支援



相談支援専門員等の人材育成・研修



災害時個別支援計画作成支援



医療的ケアの理解促進・情報発信



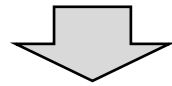
権利擁護

実態調査等から見えてきた状況・課題（災害時対応に関して）

「医療的ケアを要する障害児・者等に関する実態調査報告書」より（平成27年7月）

自由記述より（一部抜粋）

- ・ 大きな地震や災害がとても心配
- ・ 突然の大地震などが来た際、どうしたらよいのかわからない
- ・ 災害時、何とか自宅にとどまることができても、たくさんの医療機器を使う子にとって電気（電源）がなければ過ごせず、命の危機を感じる
- ・ 電源が確保できなかったために、助かるはずの命をムダに失いたくはない
- ・ 地震などの災害時に避難できるか不安。避難先での医療ケアが確保できるのか、避難所はバリアフリーなのかなど



- ・ 自然災害発生時の備えに対する不安
- ・ 世田谷区（東京都）の災害時個別支援計画の作成対象外である人工呼吸器以外の医療機器使用者への災害時個別支援計画作成の課題

東京都在宅人工呼吸器使用者のための
「災害時個別支援計画」

作成対象者：

自宅で人工呼吸器を使用し、療養されている方

出典：

東京都福祉保健局
「リーフレット 在宅人工呼吸器使用者のための「災害時個別支援計画」作成のご案内」

医療的ケア相談支援センターHi・na・taにおける災害時個別支援計画作成支援

<対象者>

区内に在住する医療的ケアを必要としている18歳未満の方（医療的ケア児）、または医療的ケアを18歳以前から必要な状態となり現在も継続している方（医療的ケア者）のいる世帯で、作成支援を希望する方。ただし、総合支所保健福祉センターで作成支援する人工呼吸器使用者は基本的に対象外。

<目的>

災害に対する備えをともに考え、計画作成の「支援」をすることで、利用者・家族の自助力を高める（計画を作成することだけを目的にせず、そこまでのプロセスを丁寧に行う）。

<基本的な流れ>

対象者の抽出

- ①Hi・na・taの相談支援の中で、作成支援希望のあった方
- ②障害保健福祉課によるポータブル電源等配布を受けた際、Hi・na・taに氏名や連絡先等の登録を希望した方で、作成支援希望のあった方
- ③支所保健福祉センターの保健師等の関係者からの相談・紹介
- ④計画相談支援（重症心身障害児（者）を守る会）で関わる際に紹介し、作成支援希望のあった方

対象者の状況確認と説明

「災害時準備フローチャート」を使用し、準備状況を確認する。
対象者の医療的ケアや使用機器などの状況について概要を聞き取る。
必要に応じて資料を渡し、まずは「簡易版」の作成を提案する。
資料を使い自身で調べ、家族と確認し共有する機会にしてほしいことを伝える。
その後、希望があれば「計画書」を作成できることを説明する。
区の地区担当保健師の関わりの状況について確認し、区への情報共有の同意をえたら、「計画書」の同意欄にチェックする。
区の地区担当保健師と共有する。
※「せたがや防災」「土砂災害ハザードマップ」「洪水・内水反乱ハザードマップ」

準備できていると確認できれば終了の場合もある

「簡易版」の確認と「計画書」作成希望の確認

「簡易版」の記入内容と、自身で調べ、家族で話し合い共有したことで知識やイメージが深まったか、確認する。
「計画書」の作成を希望する場合、詳しい情報を聞き取る。
主治医の意見等、確認が必要な部分は家族に確認を依頼する。

目的達成されていれば終了の場合もある

「計画書」の完成と共有

訪問や電話、メール等で不足の情報を収集し、最終確認後、「計画書」を完成させる。
本人や家族、関係者に直接もしくは郵送で渡し、終了。

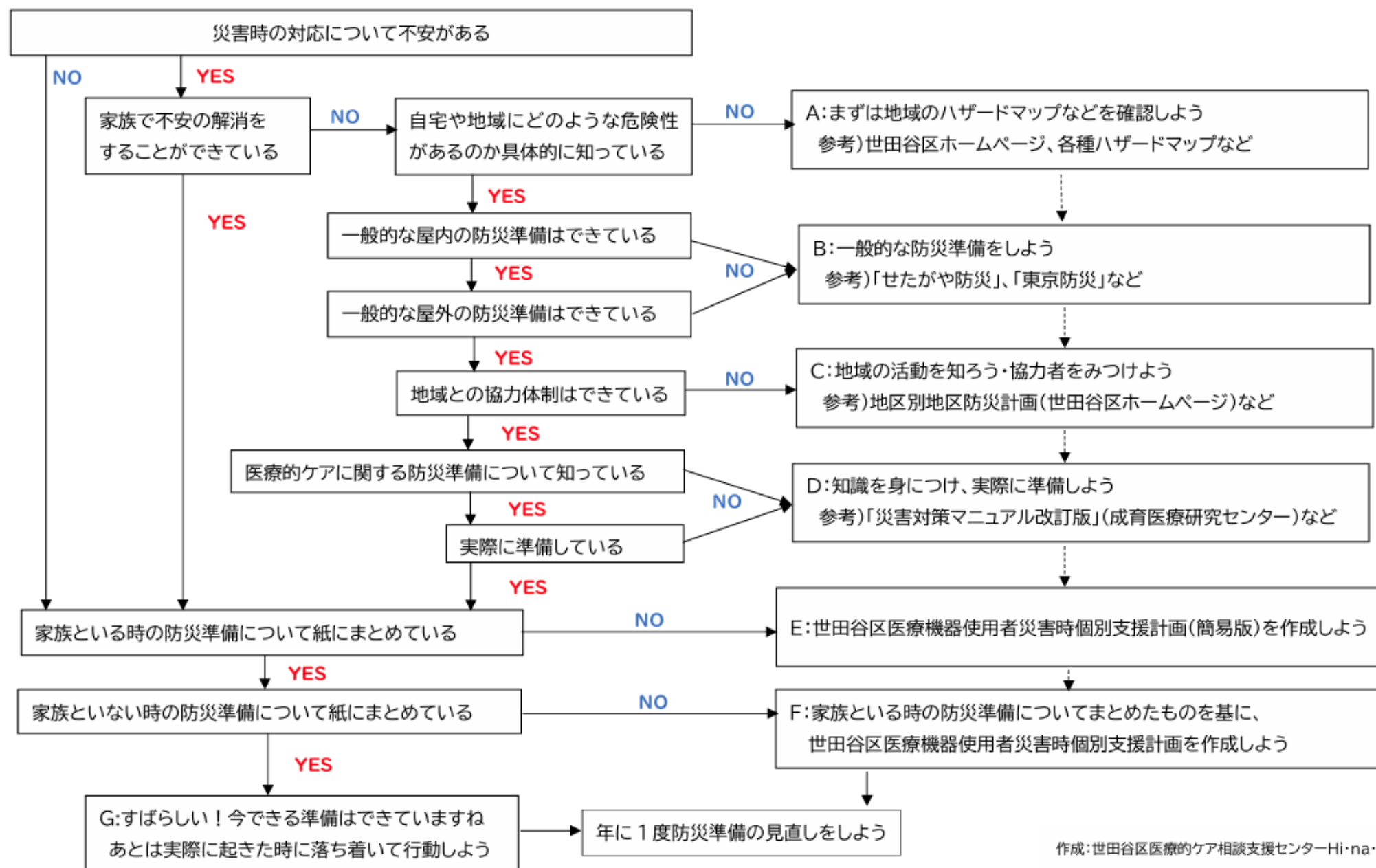
更新（年1回）

年1回、更新する。初回作成後に「Hi・na・ta作成者リスト」に追加し、更新時期がわかるようにしておく

避難訓練

各家庭の状況に基づき、どのような災害が起きたかを想定し、必要な訓練を実施

災害時準備フローチャート 〈あなたの準備はどの段階までできていますか？〉



作成:世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・ta



氏名:

作成: 世田谷区医療的ケア相談支援センター(Hi・na・ta)

「世田谷区医療機器使用者 災害時個別支援計画」 簡易版

5. 備えよう必要物品

備えたものを記入しよう

その他ケア用品 クローズ、アルコール綿、蒸留水、 薬 7 日分、最新の処方箋のコピーなど	医療機器の予備 吸引器、チューブなど	食料 経管栄養剤など	排泄 カテーテル、オムツなど	日用品 懐中電灯、ラジオ、乾電池など
--	--------------------	------------	----------------	--------------------

山折り

1. 考えよう自宅の安全性

我が家が危ないのは...

洪水 高潮 土砂災害

地震 その他()

〇世田谷区>防災・災害対策

- ・地区防災計画
- ・世田谷区雨量・水位情報
- ・土のうステーション(土のう置き場)
- ・震災時区民行動マニュアル(マップ版)
- ・世田谷区土砂災害ハザードマップ
- ・世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ

〇東京都消防庁>地震に関する地域危険度測定調査

- ・地震に関する
- 地域危険度測定調査(東京都)

緊急時に頼れる人

氏名	連絡先
氏名	連絡先
氏名	連絡先
氏名	連絡先

緊急時に頼れる連絡先

- ・携帯電話災害用伝言版
- ・NTT 災害用伝言ダイヤル「171」

私は、世田谷区医療的ケア相談支援センター(Hi・na・ta)と共同で作成した本書を世田谷区(健康づくり課・保健福祉課・障害保健福祉課)と共有することに同意します。

氏名: ()

(父・母・その他)

山折り

2. 確認しよう避難場所

一時 災害の危険がある時の一時的な
集合所 避難場所

広域 自宅や一時集合所が危険な時の
避難場所 避難場所

家族の集合場所

指定 自宅が居住困難な時等の避難場所
避難所 (物品・情報等が集まる)

3. 点検しよう医療機器

山折り

人工呼吸器	バッテリー(内部)	時間・外部	時間
酸素濃縮器	バッテリー(内部)	時間・外部	時間
たん吸引機	バッテリー(内部)	時間・外部	時間
バッテリー(内部)	バッテリー(内部)	時間・外部	時間
バッテリー(内部)	バッテリー(内部)	時間・外部	時間
バッテリー(内部)	バッテリー(内部)	時間・外部	時間

電源確保方法

- 〇車のシガーライターケーブル
- 〇発電機(種類)
- 〇蓄電池(種類)
- 〇インバータ
- 〇無停電装置
- 〇その他()

山折り

災害時個別支援計画

初回作成日: 年 月 日(作成支援者) 更新日(回目): 年 月 日(作成支援者)

ふりがな		電話
氏名	様	自宅()
生年月日	年 月 日 生(歳)	携帯
住所	〒 世田谷区	

居住地のハザード状況(世田谷区地震防災マップ等からの予想される災害の危険)

洪水 高潮 土砂災害 地震 その他()

使用している医療機器	内蔵バッテリー	外部バッテリー	合計時間
☐ たん吸引器	時間	時間	合計 時間
☐ 酸素濃縮器	時間	時間	合計 時間
☐	時間	時間	合計 時間
☐	時間	時間	合計 時間

東京電力への登録

済 ・ 未

停電が長引く場合の電源確保方法

☐車のシガーライターケーブル ☐発電機(種類)
☐インバータ ☐無停電装置 ☐蓄電池(種類)
☐その他()

近所で電源提供をお願いできそうなところ

施設名や名前	場所	電話番号

医療機器取扱事業所リスト

種類	担当者	所属	電話番号
たん吸引器(機種:)			
酸素濃縮器(機種:)			

家族・親戚連絡リスト

氏名	続柄	氏名	住所又は勤務地	緊急連絡先

【本人・家族の状況】 … 家族構成、健康面の配慮など

外出頻度	☐ 外出なし ☐ 月1回程度 ☐ 週1回程度 ☐ 週2回以上 ☐ ほぼ毎日 ☐ その他()
外出先	☐ 病院 ☐ 通所施設 ☐ 学校(小・中・高・特別支援) ☐ その他(定期的な外出先などがあれば記入)
外出方法 (複数回答)	☐ 電動車いす ☐ 車いす(電動以外)やバギー ☐ ストレッチャー ☐ 自家用車 ☐ 公共交通機関 ☐ その他()
外出時の介護者	☐ なし ☐ 家族 ☐ 家族以外(人程度)

関係者連絡リスト

機関	担当	所属	電話番号	備考
かかりつけ医				
専門医(病院)				
訪問看護ステーション				
相談支援専門員				
ヘルパー事業所				
地区ケースワーカー				
地区担当保健師				

手助けをお願いできそうな近隣やボランティアの方など

お名前	関係	電話番号	依頼事項

避難計画

避難の基本的な流れ

①家屋の被害が大きい
 ②本人の負傷、病状不安
 ③介護者の負傷で、介護が困難
 ④電源不備
 ⑤医療機器の異常等

なし → 在宅継続

避難勧告あり → 避難または入院

あり → 入院

ライフライン(電気、ガス、水道)に被害がなければ在宅で過ごし安否確認などを待つ。

台風等の風水害に備える場合の避難	☐ 在宅 ☐ 垂直避難 ☐ 親類宅 ☐ 友人・知人宅 ☐ 地域の避難所 ☐ その他 ホテルなど() →避難先との連絡
地震や火災で自宅が損壊した場合の避難	☐ 親類宅 ☐ 友人・知人宅 ☐ 地域の避難所 ☐ その他 ホテルなど() →避難先との連絡
入院する場合の医療機関	医療機関名 所在地 電話
地域の避難所	場所
その他の避難先	

避難する場合の移動方法	☐ 自家用車 ☐ 介護タクシー等() ☐ その他() 誰と
避難行動について医師からの意見(入院対応の考え方や日ごろの取り組み等)	

連絡方法	☐ 電話での連絡 ※繋がらない場合があることも想定する ☐ メールでの連絡 ☐ 171災害伝言ダイヤルへ登録 (電話番号:) ☐ 携帯災害用伝言板への安否登録(さんの携帯電話:)
使用練習: ☐ 済 (☐ 171 災害用伝言ダイヤル ☐ 携帯災害用伝言板) ☐ 無	

* 災害時の初診の医療機関提供用。医療機器の設定内容等変更の場合は随時更新

患者氏名				性別	
生年月日	S・H・R 年 月 日 (歳)				
住所	〒 世田谷区			電話	()
診断名	発症 年 月				
合併症					
主治医	専門医	医療機関名			
		医師名	電話 ()		
	かかりつけ医	医療機関名			
		医師名	電話 ()		
服薬中の薬					
基礎情報	身長		体重		
	血圧		体温		
	脈拍		SpO2		
コミュニケーション	☐ 会話 ☐ 筆談 ☐ 文字盤 ☐ 意思伝達装置 ☐ その他() 具体的に記載(YES/NO サイン等)				
〔医療処置情報〕					
酸素使用	☐ あり()L/分 ☐ その他() ☐ なし				
気管切開	☐ カニューレ製品名() サイズ() カフエア量()ml ☐ なし				
吸引	☐ 気管内 ☐ 鼻腔内 ☐ 口腔内 *特記事項() ☐ なし				
栄養	☐ 経口				
	☐ 胃ろう・腸ろう ☐ 経鼻カテーテル				
	製品名() サイズ()				
	栄養剤製品名() 一日の総カロリー()				
経鼻留置カテーテル	☐ あり() ☐ なし				
その他の特記事項					
記入者	記入日 年 月 日				
	所属	職種	氏名		

私は、世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・taと共同で作成した本書を世田谷区(健康づくり課・保健福祉課・障害保健福祉課)と共有することに同意します。

年 月 日
同意者名: _____
(父・母・その他< >)

【災害時備品チェックリスト】

最終点検日 年 月 日（点検者： ）
 次回点検日 年 月 日

✓	品目	個数	備考
<医療・介護用品> 医療品は全て使用期限を確認			
	外部バッテリー1		次回充電 年 月
	外部バッテリー2		次回充電 年 月
	充電式吸引器（機種 ）		次回充電 年 月
	予備の吸引器（種類 ）		
	予備の呼吸器回路一式		
	予備カニューレ		
	予備の吸引チューブ		
	経管栄養イリゲーター、接続チューブ	セット	
	経管栄養剤		
	50cc カテーテルチップ型注射器		
	10cc 注射器		
	膀胱留置カテーテル、尿パック	セット	
	グローブ(使い捨てプラスチック手袋 等)	箱	
	アルコール綿	箱	
	蒸留水（ ml）		
	オムツ	袋	
	薬	日分	最新の処方箋のコピーも
	蘇生パック		

<証明書類>			
	医療保険証		
	障害者手帳		
	障害福祉サービス受給者証		
	医療費助成の受給者証（難病等）		
	介護保険証		

<日用品>			
	懐中電灯		
	ラジオ		
	乾電池		
	延長コード		
	非常用食料	日分	家族の分の含めて

【医療的ケア児家族の避難訓練実施計画】

- 日時：令和6年10月15日（火）
- 場所：対象児の自宅⇔避難所（近隣小学校）
- 対象児：1歳（双子第2子）
超低出生体重児・慢性肺疾患・肺高血圧・心房中隔欠損 など
（医療的ケア）24時間経鼻酸素使用、経鼻胃管による経管栄養
その他、双子の兄（極低出生体重児、脳出血、寝返り未）
- 参加者：本児・兄・父・母・父方祖母
区障害保健福祉課 保健師（Hi・na・ta所管課）
区健康づくり課 担当保健師
訪問看護ステーション 作業療法士
Hi・na・ta センター長・保健師
- 災害想定：母子でリビングで過ごしている日中、地震が起き、停電。
その後、火災で在宅が困難になり、避難が必要になる。
- 実施内容
 - ・児の安全確認
 - ・酸素濃縮器から酸素ボンベに繋ぎ変える
 - ・酸素濃縮器を車に持っていき充電
 - ・伝言ダイヤルの練習
 - ・避難所へ避難（避難に必要な物を持参）
 - ・避難用物品チェック※実施後、参加者にて振り返り



【医療的ケア児家族の避難訓練実施後振り返り】

- 振り返りカンファレンス確認事項
 - ・地震中の安全確保行動
 - ・地震がおさまった後の児の安全確認
 - ・酸素濃縮器から酸素ボンベへの繋ぎ変え
 - ・経管栄養（自然注入）
 - ・酸素濃縮器の車からの充電
 - ・伝言ダイヤル
 - ・避難所への移動準備
 - ・避難所への移動
 - ・全体を通して
- 避難訓練をやって良かったこと・気づいたこと（両親）
 - ・訓練のための準備を通して、意識を高められた。
 - ・実際に動くことで、細かな不備に気が付いた。
 - ・災害に対する漠然とした不安が和らいだ。
（改めて考えなければ・準備しなければならないことが明確になったので）



<Hi・na・taとして>

- ・若干緊迫感に欠け、流れに沿った実際の手順確認のような形になってしまったが、上記のような感想をいただけたことは、実施の意義があったと思われる。



※各家庭ニーズに応じて実施内容・方法を考え、継続実施



もみじの家



防災コラボ始めます！

【世田谷区在住医療的ケア児者向け】

ZOOMで学ぼう！災害時個別支援計画の作り方

大規模地震や風水害に備えて、医療的ケアが必要な人たちの個別支援計画作りの必要性が高まっていますが、実態として作成のプロセスは進んでいません。

そこで「世田谷区医療的ケア相談支援センターHi·na·ta」と「国立成育医療研究センターもみじの家」が力を合わせ、世田谷区在住の医療的ケア児者と家族を対象に、災害時個別支援計画作りのノウハウを伝える学習会を行うことになりました。ZOOMを活用して、今年度内に数回実施する予定です。

第1回目は、災害時個別支援計画を作成していく上で、最低限知っておいて欲しい知識を確認し、防災意識の高揚に繋がていきたいと思います。ぜひ、ご参加ください！



内容：成育医療研究センター医師より、災害時個別支援計画の作り方と題した講義
(災害に対する備えなどを中心に)

：Hi·na·taより、Hi·na·taにおける災害時個別支援作成支援についての説明および
世田谷区医療機器使用者災害時個別支援計画簡易版作成について



Hi・na・ta 防災企画

知っておこう！区の災害対策と ポータブル電源の使い方

<プログラム>

(第1部) 世田谷区の防災対策の現状についてのお話

障害保健福祉課 障害保健福祉担当 堀川 圭

(第2部) 動画で紹介！ポータブル電源を使って

区から配布された蓄電池とソーラーパネルの使用方法を解説



ポータブル電源の正しい使い方を動画で身に付けましょう



「緊急時に使えばいい」と、押入れに入れたままの方が多くいます
日頃から充電していないと、いざという時に役に立たないことも！





【2024年3月開催】
Hi·na·taスプリングフェスタ2024
大集合！医療的ケアサポート事業所 in 世田谷



世田谷区医療的ケア相談支援センターHi·na·taでは、医療的ケアの支援を担う区内の様々な事業所が一つの会場に集い、通所や短期入所、訪問看護などのサービス情報を手軽に把握できるイベントを開催します。
会場には衣食住のなんでも相談ブースの他、星空を鑑賞できるプラネタリウム、フライトシミュレーターなど、家族で楽しめるアトラクションもありますので、ぜひ遊びに来てください。入場は無料です。
※イベント内容は、予告なく変更されることがあります



遊ぼう！知ろう！つながろう！
医療的ケアファミリーのための
スペシャルデー

参加者募集（難病や重度障害の方用）



世田谷区内で医療的ケアの支援を担う通所、訪問、短期入所などの事業所が集い、様々なサービス情報を提供するイベントを開催します。入場無料です。

イベントでは、「フライトシミュレーター」「ゴーカート」などのアトラクションや講演会も楽しめます。（別紙参照）

事前予約制で「家族写真」も無料で撮影できますので、ご希望の方は下記の申込フォームからお申し込みください。（医療的ケア児者と撮影未経験の家族を優先します）

<実施日時> 2025年1月26日(日)10時～16時

<会場> 国立成育医療研究センター敷地内各所

※別紙をご参照ください

主催

世田谷区医療的ケア
相談支援センター

Hi·na·ta

共催

国立成育医療
研究センター

もみじの家



ドナルド・
マクドナルド・
ハウス
せたがや

Keeping families close



今後に向けて…

「必要だと思うけれど時間がない…」 「余裕ができたらお願いします」

- ・ 自主的に「作成したい」という方はまだ多くない



災害時への備えのアクション、安心につなげるために



- ・ その方の取り組めるタイミングでの支援
- ・ スモールステップで災害時の備えを進められる支援、イベントの開催等
- ・ 保健福祉センター保健師、ケースワーカー、関係機関との連携

<計画作成されたをすでに終わっている方> (Hi・na・taにおいて計画作成対象外の方も含め)

- ・ 災害対策に対するさらなる意識の向上、不安感の軽減に向け、各家庭のニーズに応じた避難訓練の継続実施



医療的ケア児者へのポータブル電源等配付のご案内

(第2回)

世田谷区では、この度、人工呼吸器等を使用している医療的ケア児者が、災害時や不安定な電力供給などの緊急時に、在宅で安心して日常生活及び社会生活を継続できるよう、ポータブル電源等を無償配付いたします。下記の内容をご覧ください。

1. 対象となる方

- (1) 令和6年10月1日時点で18歳未満の世田谷区在住の方（高校在学中の18歳以上の方を含む。）のうち、在宅で、人工呼吸等の電気を必要とする医療機器を使用している医療的ケア児
- (2) 令和6年10月1日時点で18歳以上の世田谷区在住の方のうち、下記のいずれかに該当する方
 - (ア) 在宅で人工呼吸器を装着し生活している者
 - (イ) 身体障害者手帳の交付を受けた者で、日常生活用具として吸入器（ネブライザー）、電気式たん吸引器、動脈血中酸素飽和度測定器（パルスオキシメーター）、吸引吸入両用機器のいずれかの給付を受けた者
 - (ウ) 障害の程度等が（イ）と同等であると認められた難病患者等で、日常生活用具として吸入器（ネブライザー）、電気式たん吸引器、動脈血中酸素飽和度測定器（パルスオキシメーター）、吸引吸入両用機器のいずれかの給付を受けた者

※令和4年度、令和5年度、令和6年度第1回目にポータブル電源等の配付を受けた方は除きます

※申請時点で入所中、入院中の方は除きます。

※対象となる方が同一世帯に複数いらっしゃる場合は、一世帯につき一セットとさせていただきます。

2. お送りするポータブル電源等（AまたはBのいずれか）

A	ポータブル電源（容量 600Wh 程度）と小型ソーラーパネル（出力最大 100W 程度、大きさ 120 cm×60 cm 程度）のセット *災害時には充電方法が課題となるため2点セットを基本としています。小型ソーラーパネルは半分に折り畳んで収納できます。
B	インバーター装置（DC/AC インバーター、出力 300W 程度） *自家用車等から電源機器に充電を行うための電流変換装置です。ポータブル電源等をすでにお持ちで、Aセットが不要の方は、こちらを選択ください。

*写真はイメージです。実際にお送りする製品とは異なります。



3. お手続き

オンライン手続き（東京共同電子申請・届出サービス）により申請してください。締め切り：令和6年10月30日（水）

※右の二次元コードから申請フォームに移動します。



URL : <https://www.shinsei.elg-front.jp/tokyo2/uketsuke/form.do?id=1727143884510>

4. 配付時期

令和7年2月～3月頃

5. アンケートの送付

ポータブル電源等を配付させていただいた方に、後日（令和7年度初旬ごろ）、使用状況等についてアンケートを送らせていただく予定です。ご協力をお願いします。

6. 皆様へのお願い

(1) 転売等はいしめてください

この度の取り組みでお送りしたポータブル電源等について、受取後の転売や譲渡、交換、貸し付け、担保に供することなどはいしめてください。保管場所についてポータブル電源（リチウムイオン電池製）がもっとも性能を発揮するのは 25℃前後と言われています。40℃以上になる場所など高温多湿な場所への保管は、電池劣化を早めますのでご注意ください。

(2) 定期的な充電について

ポータブル電源（リチウムイオン電池製）は、およそ6か月で約20%程度が自然放電されると言われていますので、取扱説明書をお読みにになり、定期的な使用と充電をお願いします。

(3) 耐用年数について

ポータブル電源（リチウムイオン電池製）は、使用状況や保管状態にもよりますが、概ね6～10年で買い替え時期となりますので、災害時に使えないことのないようご注意ください。

【担当】

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課

電話：03-5432-2242（直通）

FAX：03-5432-3021